

(1) 会派代表 公明党

質問者議員 浦 山 宣 之

件名 1 西野市政となり、消滅回避先進市としての総括は。

要旨 1 これまでの評価と、市内外から選ばれるまちへの方向性を伺う。

要旨 2 本市の発展に重要な基盤整備（大阪河内長野線・堺アクセス道路・上原町交差点高架など）の進捗状況を伺う。

要旨 3 稼ぐ営業部と公民連携をさらに加速するために。

(1) ふるさと納税の拡充の進捗状況について伺う。

(2) 年度途中で魅力的な公民連携の提案があった際、財源確保も含め、好機を逃さず対応できる体制になっているのか伺う。

件名 2 歳を重ねても自分らしく輝き、安心して暮らせるために。

要旨 1 議会で取り上げてきた、今秋実施予定の乗合バス実証実験と今後の展望は。

要旨 2 市民の移動手段として、住民主体の取り組みや社会福祉法人、民間事業者などが担う細やかな移動支援網が重要な役割を果たしている。この移動支援網も持続可能にしていくために、現状の課題と、その解決に向けてどのように取り組んでいるか見解を伺う。

要旨 3 将来的な移動手段確保に向けた、自動運転のモデル事業を導入すべきではないか見解を伺う。

件名 3 誰一人取り残さない「こどもまんなか教育」を前進させるために。

要旨 1 学校ハビリテーションルームの効果と今後の展望について。

要旨 2 学校に行きづらくなった子どもたちへの学びの機会確保について。

(1) ゆう☆ゆうスペースやフリースクールが、教育委員会や学校の教職員、専門職、保護者等の「教育チーム」としてさらに連携を深めていく必要があるのではないか見解を伺う。

(2) 地産地消給食の日「かわちながの d a y」など、「学校給食」を食べることは貴重な機会になると考える。今後、ゆう☆ゆうスペースなどでも

食べる仕組みを構築すべきではないか。

要旨 3 中学校部活動地域移行における「地域クラブ」の運営面と人材確保について。

- (1) 持続可能な運営のための支援（地域クラブ指導員の報酬など）における財源確保について見解を伺う。
- (2) 教職員の兼業について伺う。

件名 4 ライフスタイル農と多角的なまちづくりについて。

要旨 1 ライフスタイル農とは、農ある暮らし・農ライフで自然や農を身近に感じながら、自分らしい豊かな生活や価値観を楽しむ生き方を言う。「土」に触れ、「植物」を育てる活動は、世代を超えた人と人とのつながりを生み出す。子どもの頃に収穫の喜びを知る「食育」から始まり、大人になれば貸し農園等での交流、先祖代々からの農を守るための営み、さらには新規就農や青年実業家など営農につながるストーリーがある。

一方で、必ずしも全員が本格的な営農を目指すわけではない。日常生活に「一部でも農と関わるスタイル」を取り入れることで、市民一人ひとりに「生きがい」や「やりがい」が生まれ、高齢者の認知症予防や健康寿命の延伸、医療・介護費の抑制にも寄与する。このような「農的關係人口」の増加は、放置されがちな耕作放棄地の減少に直結する。近年頻発している線状降水帯等の豪雨災害において、農地が持つ「雨水貯留機能」を発揮し、浸水被害を軽減する防災・減災機能にもつながる。

このように、「農を育む市民を増やすこと」が、コミュニティ再生、健康福祉、担い手育成、そして環境・防災へとつながる一連のストーリーになっていると考える。本市はどこに向かおうとしているのか。市の見解を伺う。

要旨 2 農作業機械等の修繕・点検整備支援制度は既存の農業者を支え、離農を防ぐための極めて実用的な支援策と考える。市の見解を伺う。

要旨 3 クビアカツヤカミキリ被害の現状と効果的な対策について伺う。

件名 5 想定外の災害に備える防災・減災対策について。

要旨 1 災害時の広域連携・支援体制の進捗状況について（災害用トイレの多層的準備、ドローン活用、遠隔診療など）伺う。

件名 6 今後増加が予想される空き家等対策について。

要旨 1 相続や配偶者との死別などのライフイベント（人生の節目）に寄り添った相談体制の構築について伺う。

要旨 2 「空き家税（空き家流通促進税）」の導入の考えを伺う。

答弁を要求する理事者

市長並びに関係理事者